

茶山・京都芸術大学駅 改良工事概要

2023年11月2日、装いも新たに生まれ変わりました



写真は2023年11月8日撮影

叡山電鉄では、明るく快適で、より一層安全にご利用いただける駅を目指し、茶山・京都芸術大学駅において、バリアフリー化ならびに美装化工事を進めてきており、このたび2023年11月2日から供用いたします。

当駅は当社線の乗降人員において上位にランクしており、通勤・通学など沿線の多くのお客さまをはじめ、近年ではインバウンドのお客さまにもご利用いただいております。

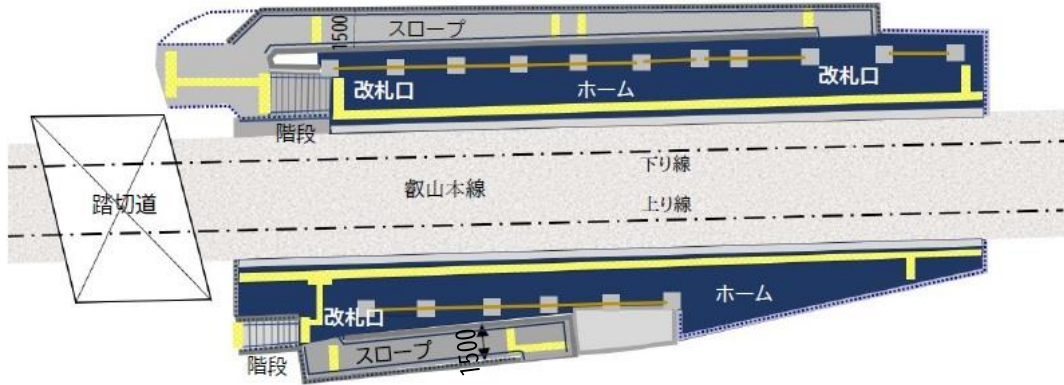
なお、本工事のうち美装化工事については、沿線地域のまちづくり、教育・研究・文化力向上を目的とする当社と京都芸術大学との包括連携協定(2023年3月17日締結)の趣旨を踏まえて実施いたしました。

今後とも、『茶山・京都芸術大学駅』が多くの皆さま方から地域の顔として愛着をもたれ、大切にご利用いただけるよう努めてまいります。

1. プラットホームの段差解消工事

バリアフリー対応として、プラットホームと車両との段差を軽減するため、上り・下りホームともに、かさあげ改良工事を行い、あわせて改札外から各ホームへ上がるスロープを新設しました。これらに伴い、視覚障害者誘導用ブロックを再編敷設しています。

また、下りホームでは、改札口を2ヶ所設けることで、乗降のお客さまに対する錯綜の緩和を図っております。



■改修前



□改修後 《全景》



《下りホーム》

《上りホーム》

ホームと列車の乗降口の段差を解消しました



これまでの上りホーム

改修した上りホーム

視覚障害者誘導用ブロック、内方線など整備しました



警告ブロック

上下ホームにそれぞれスロープを設けました



上りホーム側 ※工事中的のもの

下りホーム側 ※工事中的のもの

改札位置の変更して利便性向上を図りました



上りホーム改札



下りホーム改札



出町柳駅方改札(フラップ式)と出町柳駅方改札(IC タッチ式)

スロープ断面構造(壁面間1,500 手摺間1,300)

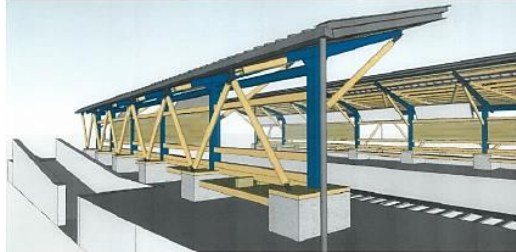
2. 駅的美装化工事

駅的美装化工事は、京都芸術大学と当社との包括連携協定に基づく取り組みの一環であり、既存の鉄骨架構を活かしながら、北山杉を取り入れて駅舎(ホーム上家・壁面)及びベンチを整備したのが特長です。間接照明を採用しており昼夜ともにぬくもりを感じるあたたかい空間に仕上げました。駅美装化に関する設計については、京都芸術大学に監修いただいております。

完成イメージパース



下りホーム裏側から見たイメージ



上りホーム裏側から見たイメージ



下りホーム中央部付近夜間照明イメージ〔間接照明を駆使したスマートな LED 照明〕

〔木材の調達〕京都市北区中川産の北山杉を使用



本工事に用いた木材は、600年の歴史をもつ京都を代表する北山杉を使用しております。駅舎に用いる飾り丸太は”磨き丸太”を使用しております。600年前から中川を中心とした北山地域で生産されてきました。磨き丸太は、杉の皮をはがし表面を砂で磨き上げて作られます。磨き丸太になる北山杉は、一般の木材の5~6倍もの手間をかけ、一本一本丁寧に加工されております。

◇駅舎の新旧



上りホーム駅舎



下りホーム駅舎



3.各工事の内容

	プラットホームの段差解消工事 ※ 国、京都府・京都市の補助を受け、当社が一部費用負担
工事内容	<ul style="list-style-type: none"> ① ホームと車両乗降口の段差解消…上下ホーム 100～190mmのかさあげ改良 ② 車いす利用可能なスロープ新設…上下ホーム各 1 箇所 ③ 視覚障害者誘導用ブロックの整備…プラットホームには内方線付き点状ブロックを敷設 ④ 本工事に合わせた改札位置の変更…下りホームには改札口を 2 ヶ所設置

	駅的美装化工事
工事内容	<ul style="list-style-type: none"> ① ホーム上家の葺き替え…鋼板と断熱材が一体化された高機能屋根パネルを採用 ② 京都産木材による美装改修… 壁面、ベンチ改修、磨き丸太を用いたホーム上家装飾 ③ LED 間接照明の採用…省エネ化および駅舎のイメージアップ ④ ホーム上家鉄部の塗装替え…京都芸術大学のスクールカラーに合わせた塗色変更

美装化工事の設計コンセプト

本工事は多くの人が集まる駅を木が本来持つ力強さの表現と温かみや触感という持ち味を生かし、京都産を用いることで森林保全にもつなげたい思いをもって設計を手掛けています。今回の工事には 12 m³の木材を用いています。従来の鉄骨構造の駅を北山杉の丸太が鉄骨を包み込み木材のぬくもりを演出させる設計となっております。

意匠設計を行った京都芸術大学環境デザイン学科・学科長の小野暁彦教授は、木架構が私たちに喚起する懐かしさや安心感に惹かれ、利用者や本学学生、地域のひとびとのひとときの憩いの場となってほしいとの思いを込めています。屋根には軽く断熱性能と耐候性に優れた製品が使用され、風通しもよく過ごしやすいホームとなっております。

構造設計と照明設計は、共に同大学の環境デザイン学科の客員教授である東郷拓真先生と長町志穂先生がご担当され、京都芸術大学教員挙げての設計プロジェクトとなっております。

また、本事業に併せて、プラットホームギャラリーを新設し京都芸術大学の教員や学生が製作した作品も展示されていきます。〔文責:京都芸術大学〕

4.プラットホームギャラリー

当社は京都芸術大学のクリエイターとの協働によって、駅舎をはじめ、叡山電車沿線地域を「プラットホームギャラリー」と称し、文化芸術を通じて沿線地域の魅力向上や活性化を目指した取り組みを展開しています。

当駅の第一弾となる展示作品は次のとおりです。

◇当駅ホームギャラリーに展示されている作品



SHIP'S CAT(Tower)2023

ヤノベケンジ
(京都芸術大学 美術工芸学科 教授)

古来より船旅に同伴して世界中を旅した、船乗り猫をモチーフにした旅の守り神《SHIP'S CAT》シリーズの一環として、京都に集う若者の出会いや交流を見守るモニュメントである。京都は古くから今まで、多くの若者や学生が集い、学び、そして世界に旅出する文化的拠点である。旅する猫の物語と創造の拠点となる大学最寄り駅の駅に相応しい作品となるだろう。



星の子 2023

白石廉
(京都芸術大学 美術工芸学科 総合造形コース4年生)
福田直樹
(京都芸術大学 美術工芸学科 総合造形コース卒業 現 京都芸術大学ウルトラファクトリーテクニカルスタッフ)

ガス灯を模した彫刻の中に、からくり人形が備わっている。時間になると、音楽とともに人形が「希望の光」を探すように踊り、そして輝く。コンセプトと動作プログラミングをからくり時計の研究、制作を行う学生の白石廉が、ガス灯の造形を金属彫刻作家の福田直樹が担当した。